

流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2009.9.1 NO.42



「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/> メール：info@nagareyama9.org

戦争体験と憲法九条を語

る

九条の会・流山「学習と懇談のつどい」

9月9日(水) 13:00～15:00

090909 の日です

場所:北部公民館講義室

お話は 難波 久さん (元高校教員)

戦前と戦後の教育を体験交えてお聞きします

(別掲の寄稿を参照してください)

九条の会・流山では毎月世話人会を行い、年に一、二度大規模な学習会や映画会を行ってききましたが、もう少し小規模でもいいから、学習や交流をしていきたいと考え、出来るだけ定例の世話人会の半分の時間をそれに割くようにしようと企画しました。会員にしかお知らせしてありません。どうぞお知り合いをお誘い下さい。また、この人の話しを聴きたい、こんなビデオを見たいなど気軽にご提案下さい。歓迎します。

総選挙民主圧勝で憲法は？

総選挙は前回の小泉郵政選挙からの大逆転で民主党の圧勝となりました。しかしマニフェストを見ても防衛、安保、憲法についてはほとんど触れていません。今後どのような展開になるのでしょうか。関連する情報を若干ご紹介し、みんなで今後を注視したいと思います。

自民党は 2009年6月3日 自民党国防部会の防衛政策小委員会は政府が今年末に決定する新たな「防衛計画の大綱」に向けた提言を了承。

提言は、「我が国自身による『座して自滅を待たない防衛政策』としての「策源地」(敵基地)攻撃能力を保有」を目指す。「国際平和協力活動への取組と多様な(多忙な)防衛力の役割」

のため、軍事費縮減方針の見直しや、ソマリア沖派兵など海外派兵の拡大をにらんだ軍事費と自衛隊員の増員要求。憲法改正と軍事裁判所の設置 自衛隊出身者の首相秘書官任用 集団的自衛権行使についての政府解釈見直し。等々。

民主党は(時事通信の記事 8.28の一部を紹介) 憲法改正をめぐる論議が、衆院選で完全に隅に追いやられている。民主党が、子ども手当創設などもっばら生活に密着した政策をアピールして政権交代を訴えていることに加え、自民党も、改憲を争点に掲げた2年前の参院選で惨敗した苦い記憶を引きずっているためだ。

「国を守る自衛隊を憲法の中でうたう必要がある。ただ、今一番大事なのは民生の安定で、すぐ議論するつもりはない」。民主党の鳩山由紀夫代表は23日の民放テレビ番組で、将来的な改憲の必要性に言及しながらも、「鳩山政権」での優先順位は低いことを強調した。

鳩山氏は改憲論者として知られ、「自衛軍」の保持や一院制導入を柱とする改憲試案をまとめたこともある。しかし、民主党の衆院選マニフェスト(政権公約)では、憲法改正は末尾で「慎重かつ積極的に検討」と記されているにすぎず、鳩山氏ら同党幹部が選挙戦で取り上げることはほとんどない。改憲に言及すれば、民主党内の旧社会党出身者ら護憲派を刺激し、政権交代が「目前」に迫る中で無用の不協和音が生じる恐れがあるためだ。

<注> 民主党の鳩山由紀夫氏は昨年4月に実弟の鳩山邦夫氏(自民党)と共同で「鳩山友愛塾」を開講。「早く政権交代を実現させ、憲法の議論も可能になるような安定政局を作り出さなければなりません」とのべています。2005年に『新憲法試案 尊厳ある日本を創る』を出版。「天皇を元首とする」「自衛軍を保持する」などと明記した独自の改憲試案を示しました。昨年3月には自民、民主、公明、国民新各党の改憲派議員でつくる新憲法制定議員同盟の顧問に就任。伊吹文明

自民党幹事長(当時)とそろっての役員就任で、自民・民主「二大政党」による“改憲大連立”体制づくりに参加しました。

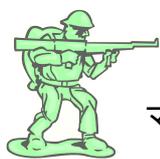
会員より投稿 難波 久さん(駒木在住)「青年よ武器を執るな」「教え子を戦場に送るな」これは私が教師になりたての頃の教師仲間のスローガンでした。そこには戦争を賛美し、多くの教え子を死地に追いやった教師たちの悲痛な叫びがあったのです。当時私達は平和憲法を学習し、輝かしい新憲法によって恒久の平和が訪れたことを喜び、この国を東洋のスイスとして、あの悲惨な戦争が二度と起こらぬような国にしようと決意したのでした。



そして子供たちに憲法九条の歴史的意味を熱をこめて語りました。生徒も目を輝かせて話にきき入り、共に平和国家の到来を喜び合いました。

それから半世紀、世の中は大きく変わりました。戦後生まれの世代が4分の3を占める今日、戦争体験が風化する中で憲法9条はズタズタに骨抜きにされ、海外派兵は実現し、産業界からは武器輸出まで公然と論議されるようになりました、しかし憲法9条の「国の交戦権は、これを認めない」の条項が厳として存在する限り、それが歯止めとなって64年間の平和が維持できたのです、この条文がなければ朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争とアメリカの要請により出兵を余儀なくされたことでしょう。

私は昭和3年1月、難波家の二男として東京の杉並に生まれました。昭和6年3歳のときに満州事変が勃発し、以来昭和20年の敗戦にいたる15年戦争の真只中に幼年期、少年期、青年期を過ごしました。徹底した軍国主義教育、忠君愛国に明け暮れる毎日で、配属将校からは「諸子は人生25年を思え。それまでに太平洋の防波堤となって祖国の為に命を捧げよ。死んで靖国神社に祀られる。まさしく男子の本懐ではないか」と訓辞を受けました。



物資は極端に欠乏し、衣食に事欠く日々でしたが、「欲シガリマセン勝ツマデハ」の標語が一切の欲望を封じ込めてしまったのです。

戦争は常に弱者に犠牲を強いるものです。女性、子供、病人、老人など「役立たず」として大事に扱われることはありませんでした。そしてひとたび戦争になると、人々は理性を失い、狂気に走り、肉親は離反し、人々は相互不信状態に到り、相互監視の密告社会となることは「隣組」の制度によっても明らかです。ムードに流されやすい日本人の国民性は巧みな指導者の誘導によってワッと一方に傾く危険を持っています。このことは4年前のいわゆる「郵政選挙」で「抵抗勢力」だの「刺客」だのと言ったパフォーマンスによって大勢が決した事実からも明らかです。メディアを抱き込んで世論を操縦する野望を監視する必要があります。戦後体制からの脱皮とか、諸外国と同じ「普通の国」にしようなど巧みに権力の思うように操れる国にしようと狙っているのです。治安維持法も障害者自立支援法も盗聴法も共謀法も国歌国旗法も制定の初期には美辞麗句を並べますがいったん成立するとどんどん拡大解釈されて国民を縛る事になるのです。ハッと気付いた時にはもう遅いのです。私たちは小さな動きのうちにその芽を摘むようにしたいのです。正義の戦争などないのです。戦争では勝った方も負けた方も深い傷を残します。

日本が310万人の戦没者を出したあの戦争は誰が起こしたのでしょうか？日本では「私が戦争を止めさせた」という人は何人も居ますが、「私が戦争を始めました」という人は一人もいないのです。今日の「無責任時代」の遠因はここにあってはいませんか。

今、戦後64年経って、日本は新たな階級社会を生み出し、貧富の差は益々拡大し、世の中は荒廃しました。これからも平和を叫び続け、憲法九条を守り、子や孫の世代にあの忌まわしい戦争の惨禍に陥れぬよう声を上げ続けて行きたいと思っています

定例駅頭宣伝

9月は9日(水) 15:30~16:30

駅頭宣伝 流山おおたかの森駅

8月9日は長崎の日。日曜日でもあり、やや人通りも多く、参加者も初めてのKさんなど14名

とにぎやかに3～400枚チラシ配布。

[カンパはこちらの郵便振替口座へ](#)

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山